

最高賞に小池功逸さん

「書道の魅力子どもたちに」

謙慎書道会展

第83回謙慎書道会展（読売新聞社後援）で、板橋区の小池功逸（本名・功一郎）さん（28）が最高賞の「西川賞」に輝いた。小池さんは「うれしさよりも『まぶさか』自分の作品が選ばれると」という驚きが大きかった



「西川賞」を受賞した小池さん（板橋区で）

兼てて河津橋を渡るも静かなる道
 舟の音も入る静かなる道
 里の静かなる道
 小池功逸

小池さんの受賞作品

「た」と喜びを語った。受賞作は漢詩を題材に、縦23.2センチ、横52センチの紙にしたためた。辺境を旅する旅人の嘆きをうたった詩だが、「詩の内容ではなく、字の形やバランスを重視して題材を決めた」という。題材選びに1か月を費やし、書きあげた作品の中から、最高の一枚を選んだ。「準備には時間をかけるが、書くときは一気に書く。それが作品に勢いを与えてくれる」と語る。

日だが、深夜に書に取り組んでい。小池さんは「短い時間で取り組むことが、むしろ集中力を上げてくれた」と笑顔をみせ、「言葉の意味だけでなく、文字の形や墨の色合いなど、書道の魅力を子どもたちに伝えていきたい」と話した。

埼玉県内の私立高校に、国語科などの教諭として勤務。昨年9月には長女が生まれ、子育てにも忙しい毎